

会議名称	平成30年度第1回平塚市スポーツ推進審議会
日時	平成30年(2018年)7月2日(月) 13時30分から15時30分まで
会場	平塚市役所本館4階 410会議室
委員数	14名
出席者 委員	12名 陶山正明、萩裕美子、田中國義、杉山鎮夫、首藤幸子、鈴木登喜雄、高橋篤、守泉光江、畔柳豪、鈴木喜明、平松廣幸、熊沢裕子
出席者 事務局	6名 吉野教育長、高橋社会教育部長、石塚スポーツ課長、市川課長代理、五島課長代理、植手主査

1 委嘱式

- (1) 教育長から各委員に委嘱状の交付がなされた。
- (2) 教育長あいさつ

○教育長

皆様方におかれては各方面の第一線で御活躍されている。平塚市のスポーツ推進のため、お力添えをいただければ、大変有り難い。

平塚市では2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、リトアニア共和国オリンピック及びパラリンピック委員会と神奈川県と三者で事前キャンプの実施に関する協定を締結している。国民、平塚市民においてもスポーツへの関心が高まっていくことが予想される。社会、生活環境の変化を踏まえ、施策に反映していくこと、そして、行政、及び、スポーツ関係団体等が連携していくことが市民のスポーツ活動を活性化させるために重要であると思うので、引き続き御協力をくださるようお願いしたい。

2 各委員・事務局自己紹介

3 平塚市スポーツ推進審議会の職務等について

〈第1回審議会〉

- (1) スポーツ推進審議会の役割等についてスポーツ課市川課長代理より説明

○スポーツ基本法等関係法令について

スポーツ基本法の第1条の目的、第2条の基本理念、第10条の地方スポーツ推進計画、第31条の都道府県及び市町村のスポーツ推進審議会等、第35条の審議会等への諮問等について、また、平塚市スポーツ推進審議会条例、平塚市スポーツ推進審

議会規則の説明がなされた。

○平成29年度平塚市スポーツ推進審議会の実績について

平成29年度の平塚市スポーツ推進審議会の活動内容の実績について説明がなされた。会議は合計3回、市民総合体育大会時に会場視察を行った旨の説明がなされた。

4 会長・副会長の選任について

【事務局】

平塚市スポーツ推進審議会規則第2条により、審議会に会長及び副会長を置くとなっており、第2条第2項により、会長及び副会長は、委員の互選によるとなっている。会長及び副会長を選出していただきたい。

会長に陶山委員、副会長に萩委員を推薦する提案があり、委員相談の上、決定。

【陶山会長】

スポーツ推進審議会委員の皆様の御協力により、今年度も平塚市スポーツ推進審議会を進めていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願ひしたい。

【萩副会長】

会長をサポートして、平塚市スポーツ推進審議会を進めていきたいと思っております。

5 議題

(1) スポーツ推進計画について

ア 平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査について

【事務局】

スポーツ推進計画は中間年である平成30年度から31年度までに、進捗状況、社会情勢を踏まえ、必要に応じて見直しを行うとしている。また、計画策定時に、「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」を実施したが、平塚市民のスポーツ活動の現状を把握し、見直し後の計画に反映するため、今回も改めて調査を実施した。

アンケートの対象は平成30年4月1日現在、住民基本台帳記載の20歳から79歳の市民3000人で、無作為に抽出。返信用封筒を添えて郵送した。調査期間は平成30年4月18日～5月7日までの20日間。回収件数は1098件、回収率は36.6%。前回は1066件、35.5%であった。

結果概要を紹介する。性別、年齢、住んでいる地区の回答者比率は、前回の調査内容と同じ割合。授業や仕事以外で、この1年間で30分以上行った運動はウォーキングが前回と比較して4パーセントほど減少したものの、変わらず高い割合。また、ランニング、サイクリング、室内運動器具を使用した運動、ゴルフも次いで高い割合。

運動の頻度は、運動を行ったと回答した人が対象だが、比較的高い頻度で行っている傾向がうかがえる。

スポーツ推進計画の計画指標で、市民の週1回以上のスポーツ実施率を目標値として掲げており、今回の結果は55.9%。前回の実施率、H24は54.1%、H30の目標値は56.1%だったので、目標値には少し及ばなかった。

スポーツをしない理由はスポーツをしていないと回答した方が対象だが、仕事、機会がないからが理由の多くを占めている。今後行いたい運動はウォーキング、体操等、ランニング、卓球、サイクリング、室内運動器具を使用した運動が高い割合。運動を始めるきっかけは、自宅から近距離で運動できる場所、健康意識への啓発が高い割合。公共スポーツ施設に望むことは、施設内設備の充実、駐車場の整備、利用手続き、利用料金についての要望が高い割合。設置を希望する施設についてはトレーニング場、サイクリングコース、遊歩道、ジョギングコースが高い割合。総合型地域スポーツクラブについては、知らないと答えた方が7割を超えていて認知度が低い状況。スポーツボランティア活動については、特になしという回答が8割を超えており、あまり関心がないという結果。

各質問項目でその他の項目を選択していた中で、行ったスポーツと今後行いたいスポーツで多かった回答はボルダリング、ヨガ、また、山登り（山歩き、登山）サーフィンも多かった。自由記入欄に記載されている意見で、男性では、仕事が忙しい、女性では子育てが忙しい、また、子供と一緒に楽しめるイベント、施設があればなどの意見が多かった。

全体を通して、現在の生活環境では特定のスポーツに取り組む余裕のない人が多く、取り組むのなら、まずは手軽に始められるウォーキングなどの軽い運動を望む傾向が強い、という印象を受けた。また、現在の生活環境を変えずに、あるいは、負担となることなく、例えば子育て中の男性、女性が子どもと一緒に参加できるものなど、生活環境に沿ったもの、また、健康意識への啓発、スポーツをする必要性、意識改革を望んでいるのではないかというような印象を受けた。

以上、見直し後のスポーツ推進計画に反映させるために、件数や割合の再確認を含めて、詳細に分析する予定。

【会長】

委員の方の御意見はいかがか。

【副会長】

「運動やスポーツを始めるきっかけ」という質問項目について、前回は合計が100%以上になっているが、今回も複数回答項目か。

【事務局】

前回はいくつでも回答可能とし、今回は回答3つまでの複数回答としている。

【副会長】

回答数が違うので、前回との比較検討はできない。大事な質問項目なので正しい分析ができれば良いと思う。

【委員】

公共スポーツ施設に望むことや設置を希望するスポーツ施設についてのアンケート結果の情報を関係する庁内他課に情報提供をするか。

【事務局】

する予定でいる。

【会長】

総合型地域スポーツクラブの認知度についての質問では、かなり認知度が低いという状況を懸念する。

【副会長】

情報量の少なさが起因していると考える。

【委員】

総合型地域スポーツクラブが市民のニーズに合っていないのも理由のひとつと考える。ニーズに合った団体としての在り方を検討する必要があるのではないか。

【会長】

スポーツに親しむ生活の実現のためにいかに施策を実施していくかが重要である。

【委員】

平塚はスポーツに親しめる自然環境や施設は多くあるが、気軽にスポーツを始めるには難しい環境にあると考える。今回のアンケート結果を受け、多くの人がスポーツを始めたい意識はあると感じた。気軽に始めやすい環境が足りない印象がある。

【会長】

貴重な意見である。スポーツを始めやすい環境づくりが重要である。アンケート結果を分析し、スポーツをする環境づくりを進めていきたい。

イ 進行管理について

【事務局】

各事業について、全体的には一定の成果を上げているという結果。

廃止事業について、青少年交流体験事業は平成27年度から重点的に他の事業を推進するとの方向性により予算配分を再考し、今後の展開が難しくなった、とのことで廃止。介護予防運動機能向上事業である、お体はつらつ教室や転倒骨折予防教室は、法改正による2次予防事業の廃止や、行政主体のサービスでなく、住民主体、民間主体となってきているので、それを支援する方向にシフトしているため、廃止。心身障がい者レクリエーション大会（事業）はふれあいミニ運動会を実施していたが、福祉

フェスティバルに付随して実施していた経緯があり、福祉フェスティバルの平成28年度の廃止に伴い、廃止。

進捗状況、成果に遅れや十分な成果が得られなかった事業の理由について、各種ビーチスポーツ体験会の開催事業は、平成28年度の補助金交付終了で、名義後援による補助のみのため。スポーツボランティア制度運営事業、活動事業は、スポーツボランティア新規登録者なし、活用実績もなしのため。スポーツ普及員については、認定制度として、検討段階のため。体育協会の法人化は、準備段階のため。スポーツ指導者制度関連は新規登録者なし、活用実績もなしのため。ベ이스ターズ等活用したイベントの開催は、庁内他課でも実施しているので、現在は廃止としての運用のため。未利用地所有者との調整は具体的な施設整備計画がないことから、今後の施設整備計画策定まで休止。県スポーツ施設の借用は、県スポーツ広場が他にないため、事業を終了。民間スポーツ施設の借用は、民間施設は、企業独自に地域のスポーツ団体に貸し出しいるため、休止。

スポーツ推進計画の見直しに伴い、個別事業について整理していく。

【会長】

委員の方の御意見はいかがか。

【副会長】

スポーツ指導者、スポーツボランティアの新規登録者や活動実績がなかったという評価だが、実際に指導者や、ボランティアを行っている人はいる。登録をすることによるメリット等がなければ、登録制度で有る以上、登録者の増加は難しい。制度の在り方等、見直しは必要と考える。

【事務局】

スポーツ推進計画の見直しに伴い、検討していく。

(2) 第67回市民総合体育大会について

【事務局】

第67回市民総合体育大会の視察について、視察コース案を5つ用意した。委員の方々にコースを決定していただきたい。

【会長】

今年度はコース案が5つあるが、委員の方の御意見はいかがか。

【委員】

市民総合体育大会の初日に視察することにこだわらず、全体的に検討しても良いと考える。

【事務局】

初日に多くの競技を実施している。現実的に視察を初日に実施する中で、コースを決定していくのがより良いと考える。

【会長】

多くの会場を視察できるコース1案とする。

(3) その他

【事務局】

平塚出身の穂積絵莉選手が全仏オープンテニス女子ダブルスで準優勝した。決勝戦の開催に伴い、応援企画イベントを実施した等、スポーツ情報の提供を事務局から行った。

6 閉会